



六甲山魅力再発見市民セミナー

市民セミナーVol.62
六甲山で生き物と出会う
/ 岩槻 邦男
2008年5月発行



一庫の里山景観

第62回テーマ： 六甲山で 生き物と出会う

講演内容

- 人と自然の共生の歴史
- 人里と鎮守の杜：日本人の宗教心
- 地球温暖化と生物多様性

実施日：平成20年5月17日（土）
午後1時～3時45分
場所：六甲山自然保護センター



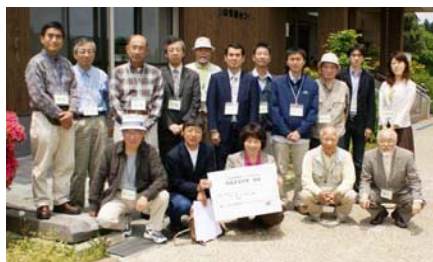
講師：岩槻 邦男さん
プロフィール

1934年丹波生まれ。京都大学教授、(社)日本植物学会会長などを歴任。現在、東京大学名誉教授、ユネスコ国内委員会自然科学小委員会委員長など。平成19年文化功労者。

第6期の活動がスタート

この日の六甲山は晴天に恵まれました。気候は涼しく、新緑がまぶしい爽やかな六甲山でした。

午前中は「活用する会」の平成20年度総会を開催しました。平成20年度はこれまでの活動に加えて、六甲山での環境学習・生涯学習をさらに促進し、会員数300名を目指した募集活動をするなどが承認されました。



総会の参加者で記念撮影

岩槻さんは日本を代表する科学者

市民セミナーは、人と自然の博物館の館長の岩槻館長を講師にお迎えしました。岩槻さんは日本の植物学者の重鎮で、日本の生物多様性国家戦略の策定にも関わっておられる方です。非常にご多忙の中、セミナーにお越しいただきました。

里山のコンセプトや生物多様性について分かりやすくお話いただきました。質疑応答にも1時間以上お応えいただき、内容の濃いセミナーになりました。

日本の「里山」は地球継続性の大事なコンセプト

市民セミナーでは、里山は自然破壊の残滓であり、言葉の定義上の「自然」ではない。日本の里山は奥

山と人里をつなぐバッファゾーンであり、人里・里山・奥山での住み分けで、人と自然の共生ができてきた。「人と自然の共生」は日本人なら誰でも理解できる概念だが、それは日本人の自然に対する畏怖の気持ちに根ざすもので、世界共通のものではない。地球の継続性にとって、この概念を広めることは重要だとお話されました。

六甲山を活用しなくちゃ「もったいない」！

岩槻さんから、当会のキャッチフレーズ「六甲山をたのしまなくちゃもったいない」の「もったいない」には、八百万の神から与えられた環境を無駄にしないという意味がある。とお話いただきました。

六甲山での活動は地球上の小さな1点での活動ですが、この環境を有効に活用することは、地球の継続性にも繋がっていくのだと勇気づけられました。

※詳しくは、1、2ページをお読みください。

参加の感想 井上 佳幸さん

私には人生の目標があります。

それは、「全世界に大きな木を植え森を創り、人々に快適を提供すること。」です。そこで、今回ある人に紹介してもらい参加しました。

色々と学ばせて頂きましたが、一番大きく心に残ったのが自然の意味でした。自然という言葉のもつ意味が、最も私のふに落ちました。

最後に講師の岩槻さん、私に今回のセミナーを紹介してくれた方、会場や六甲山に感謝！



主催：六甲山自然保護センターを活用する会

協力：兵庫県立人と自然の博物館

後援：兵庫県神戸県民局 灘区役所 神戸市教育委員会

【助成金をいただいている機関】

コベルコ環境保全基金、

公益信託自然保護ボランティアファンド、

公益信託TAKARAハーモニストファンド